

鬼才・異才・奇才と形容されるカリスマ降臨！

# ヴァレリー・アファナシエフ ピアノ・リサイタル

2021年  
**11月20日(土)**

茅ヶ崎市民文化会館大ホール

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-11-1  
(JR茅ヶ崎駅北口徒歩8分)

開演時間/14:00(開場時間13:20)

全席指定/S席6,500円(税込) A席5,000円(税込)

学生席2,500円(税込)

Valery  
Afanassiev

## Program

J.S.バッハ:平均律クラヴィーア曲集 第1巻より  
8つの前奏曲とフーガ

- 第1番 ハ 長調 BWV846
- 第2番 ハ 短調 BWV847
- 第7番 変ホ長調 BWV852
- 第8番 変ホ短調 BWV853
- 第21番 変ロ長調 BWV866
- 第22番 変ロ短調 BWV867
- 第23番 ロ 長調 BWV868
- 第24番 ロ 短調 BWV869

ブラームス:4つのバラード Op.10  
2つのラプソディ Op.79

\*出演者の都合により曲目等変更になる場合がございます。予めご了承ください。

10月6日(水)チケット発売開始 \*茅ヶ崎市民文化会館での電話予約は10月7日(火)9:00より受け付けます。

【予約・お問い合わせ】

茅ヶ崎市民文化会館  
0467-85-1123

茅ヶ崎市楽友協会  
0467-82-3744

【プレイガイド】

茅ヶ崎市民文化会館  
0467-85-1123

川上書店茅ヶ崎ラスカ店  
0467-87-3826

長谷川楽器店本店  
0467-85-1725

イープラス  
<http://eplus.jp>  
(パソコン&携帯)

【託児サービス】

対象:0歳児～小学校3年生

お子様1人につき1,000円(0歳～1歳 2,000円)

時間:公演30分前～公演終了まで

お申込み:イベント託児・マザーズ

☎ 0120-788-222(月～金10:00～12:00・13:00～17:00)

※公演1週間前まで受付。定員になり次第締め切ります。

※公演当日のお申込みはできませんのでご了承ください。

\*学生席は茅ヶ崎市民文化会館と茅ヶ崎市楽友協会のみの取り扱いとなります。※未就学児の入場はご遠慮ください。

※終演後のご面会、及びロビー、楽屋口等での出演者の出待ちはお断りいたします。また、出演者へのプレゼントはお預かりすることができませんので予めご了承ください。

ヴァレリー・アファナシエフ(ピアノ)

*Valery Afanassiev piano*



1947年モスクワ生まれ。モスクワ音楽院にてヤコフ・ザーカとエミール・ギレリスに師事。2つの世界屈指のコンクール、ライプツィヒのバッハ国際コンクール(1968年)およびブリュッセルのエリーザベート王妃国際音楽コンクール(1972年)で優勝を飾った。

1974年に政治亡命者としてベルギーに保護を求め、現在、同国で暮らしている。西側への亡命後、ヨーロッパはもとより、日本、中国、オーストラリア、アメリカ合衆国などで演奏活動を続けてきた。

日本においては1983年にヴァイオリニストのギドン・クレーメルの共演者として初来日。1987年の第3回「東京の夏」音楽祭のソロ・リサイタルでは熱狂的な成功を収め、以来日本へはたびたび来日している。

アファナシエフは、室内楽の演奏にも情熱を注ぐほか、数年にわたり世界各地の様々なオーケストラを指揮してきた。彼は、自身が尊敬する指揮者たち(フルトヴェングラー、トスカニーニ、メンゲルベルク、クナッパツブッシュ、ブルーノ・ワルター、クレンペラー)が織りなしたサウンドとポリフォニーの一端を表現できるよう努めている。

アファナシエフはこれまで、みずから執筆した解説を添えたアルバムを約70作リリースしている。彼のねらいは、作曲家の意向をめぐる自身の洞察の全体像を聴き手に示すことにある。この試みは、アファナシエフが詩的な鍊金術を展開する実験工房への“ガイド付きツアー”にたとえられる。そこでは、詩、哲学、絵画、カバラ、さらにワインまでもが、記譜法と同等の規準として扱われるのである。アファナシエフは現在、ソニー・クラシカル・レーベルと録音契約を結んでいる。彼にとって初録音となる作品が収められた6枚組の最新ボックス・セット『テスタメント(遺言)／私の愛する音楽』は、2019年度の音楽之友社「レコード・アカデミー賞」(特別部門)に輝いた。

2008年3月には、アファナシエフのドキュメンタリー番組「漂泊のピアニスト アファナシエフもののあはれを弾く」がNHKハイビジョン特集で放送された。また、大好評により2012年、2013年、2019年にもNHKBSプレミアムにより再放送された。

作家でもあるアファナシエフは、37作の小説(うち23作は英語、14作はフランス語)を手がけている。このほか、英語による詩集を16冊、ロシア語による詩集を9冊、長編集を1冊、短編集を1冊、ダンテの『神曲』の評釈をまとめた大著を1冊、随筆集を3冊、執筆している。さらに、『展覧会の絵』と『クライスレリアーナ』から靈感を得た2つの劇作品を書き上げ、みずからピアニストおよび俳優として4か国語で上演した。またアファナシエフは、先ごろカフカの『流刑地にて』にもとづく戯曲を完成させたばかりで、同作品内ではモートン・フェルドマンの『マリの宮殿』を演奏している。

